

森のムッレ教室とは？

約 60 年前、ヨスタ・フロム氏によって作られたスウェーデン発の子ども向け環境教育です。持続可能な社会形成を目指し、世界 11ヶ国に広がっています。

(社)日本野外生活推進協会

2020.1.15 発行



全国シンポジウム公開教室にて

ma-chan

ごあいさつ

日本野外生活推進協会 代表理事 高見 豊

2020年(令和2年)新年あけましておめでとうございます。

皆さま方には、ご健勝で新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年5月から元号が平成から令和へと移りました。

顧みれば平成の時代は、度重なる大きな自然災害に見舞われましたが、戦争のない平和な時代でありました。新しい令和の時代も平和が続くことを願ってやみません。

本年は東京オリンピック・パラリンピックの年でもあります。世界平和の証であり、世界大規模のスポーツの祭典である事業の成功を祈りたいと思います。

昨年は、千葉県に集中豪雨、長野をはじめ東北に至るまで広い範囲に台風19号が襲い、甚大な被害をもたらしました。年々自然災害が頻発するようになってまいりました。

地球温暖化の影響は、わが国だけではなく世界各地に乾燥による火災や、巨大化するサイクロン、大風、ハリケーンによる豪雨、強風竜巻が起きており、気候変動は、ますます拡大してきていることを実感させられる年となりました。緊急なパラダイムチェンジとライフスタイルの見直しが求められています。被害にあわれました皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年11月2日に第6回「ネットワーク組織代表者会議」を開催いたしました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

また、11月3日・4日には第8回「森のムッレ全国シンポジウム in 屋久島」を世界遺産の屋久島で開催いたしました。

基調講演では、高見幸子事務局長より「スウェーデンにおける野外教育のすべてー「森のムッレ教室」を取り入れた保育実践」について、光橋翠氏には「スウェーデンの野外保育に見る自然感覚ーこれからの日本における自然保育」と題して講演いただきました。

スウェーデンにおける野外生活、野外保育、野外教育の実践について、また、「自然と子ども」について、改めて再認識することができ、これからのリーダーが進むべき道について深い学びを得ることができたと思います。晴天にも恵まれ、すべてのスケジュールが滞りなく進行することができ、大成功に終わりました。実行委員会をお引き受けいただきました屋久島の認定こども園あゆみの森こども園の皆さま、ありがとうございました。感謝申し上げます。

本年も、森のムッレの普及のため、新たな取り組みを企画してまいります。

2020年の年頭に当たり、リーダーの皆さまのご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます

理事

代表理事	高見 豊
理事	君塚 昌俊
理事	小山 通子
理事	西村 恭子
理事	本庄 賀寿美
理事	原田 優
理事	荻野 尚子
理事	阪谷 裕子
理事	吉住 亜由美
監事	足立 邦明
監事	余田 淳子



SKOGSMULLE
FRILUFTSFRÄMJANDET

事務局

事務局長	高見 幸子
協会事務局事務員	松本 みゆき
ネットワーク事務局事務員	松枝 純

第6回ネットワーク組織代表者会議、第8回森のムッレ全国シンポジウム in 屋久島

2019年 11月2日(土)～4日(月・祝) 鹿児島県熊毛郡屋久島町の認定こども園あゆみの森こども園と屋久島環境文化研修センターを会場に、第6回ネットワーク組織代表者会議と第8回森のムッレ全国シンポジウム in 屋久島を開催いたしました。

第6回ネットワーク組織代表者会議 2019年11月2日(土) 会場 あゆみの森こども園

出席団体(15団体)

ムッレ市島(兵庫県)
環境ネットワーク「虹」(福岡県)
NPO 法人ふくつ子どもステーションすてっぷ(福岡県)
NPO 法人青空保育たけの子(山形県)
NPO 法人響の山里くじら雲(長野県)
NPO 法人こども育ちわたし育ち Madrina(兵庫県)
NPO 法人奈良地域の学び推進機構(奈良県)
NPO 法人小金井地域の学び推進機構(東京都)
認定こども園いちじまこども園(兵庫県)
認定こども園あいいくの丘(兵庫県)
子うさぎの森保育園(福岡県)
地球に夢中研究所(兵庫県)
桑原香織(大阪府)
ツリーハウス株式会社(東京都)
認定こども園あゆみの森こども園(鹿児島県)
(順不同・敬称略)



過去最多の15団体の代表者の皆さまにご参加いただき、3団体から活動報告がありました。

ウェルカムイベントとして、書家 吉川寿一氏による「SYOING!パフォーマンス」、あゆみの森こども園の園児による「アフリカダンス」で会議のオープニングを盛り上げていただきました。

「ユネスコスクール進捗報告」
子うさぎの森保育園 城後哲志氏



「しらぎく幼稚園の活動報告」
環境ネットワーク「虹」 佐伯美保氏

「信州型自然保育の効果研究報告」
NPO 法人響の山里くじら雲 依田敬子氏



意見交換会のテーマは、あゆみの森こども園提案「屋久島宣言について」全国シンポジウムで行う宣言文の内容について、熱いディスカッションが交わされました。



第8回森のムッレ全国シンポジウム in 屋久島

2019年11月3日(日・祝)～4日(月) 会場 屋久島環境文化研修センター

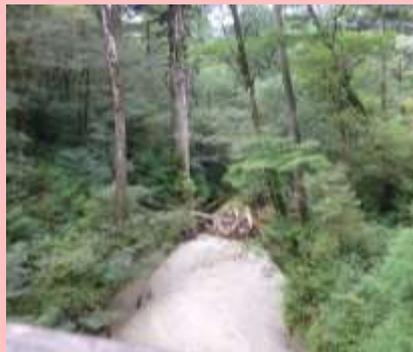


1日目 2019年11月3日(日・祝) 基調講演と自然探索 in ヤクスギランド



基調講演1
スウェーデン森のムッレ財団理事、
当協会事務局長 高見幸子
「スウェーデンにおける野外教育のすべて
～「森のムッレ教室」を取り入れた保育実
践～」と題し、2019年10月出版の書籍
を元に、スウェーデンではどのような教育
方法で子どもたちを導いているのか、グ
ループワークを用いた講演をしました。

基調講演2
サステナブル・アカデミー・ジャパン共同
代表、当協会講師 光橋翠氏
「スウェーデンの野外保育にみる自然感覚
とこれからの日本における自然保育」
と題し、現在、お茶の水女子大学博士課程
において研究中の内容を元に、スウェー
デンの野外保育の最新情報をご講演いた
されました。



午後は、ヤクスギランドへ。
各グループに1名の現地ガイドが同行、屋久島ならではの環境に
育まれた数々の巨木などを解説をいただきながら、自然観察をし
ました。



屋久島環境文化研修センターの7000年の森を会場に、実行委員会のあゆみの森こども園の先生方がリーダーとなり、森のムッレ・クニユータナ・クノッパン・森のオープンプレスクール、ストローバレ各公開教室を行いました。



蝶の糞

～親子森のムッレ公開教室に参加して～

まず、森の入り口で、森のムッレ誕生のお話を聞き、自然に入る時の3つの約束を子どもたちと確認をしました。そして、みんなでムッレの歌を歌いました。そして、出発！！この日のテーマは、五感を使って屋久島の森と仲良くなる取り組みで、五感のうちの「におう」がテーマでした。あえて、自然にないにおい、例えば、魚のにおいとかお母さんのにおいを探そうと呼びかけ、子どもたちの好奇心をかきたて、においのする物を発見するとコップに入れるという活動。コップの中でにおいを嗅ぐとより強く感じられ、またいろいろなにおいが混じり驚き！親子でゆっくり森のにおいを探しながら、その間に虫を見つけたり、蝶の糞を見つけたり、発見の多さは、さすが屋久島の大自然でした。自然の道クイズをした後、みんなで「コリコック！」と呼ぶと森のムッレさんが登場。葉っぱの違いや、自然に戻らないペットボトルなどは捨てないようにと話しかけました。そして、一緒に遊んだ後は、宝探しで可愛いドングリのプレゼントをもらいました。7000年の森でのムッレ教室は、素晴らしい自然の発見の連続で、楽しく、あっという間に終わりました。リーダーの皆さんご苦労様でした！（文責 高見幸子）

コップを観察ケースにして…



ムッレさんからのプレゼント

ネットワーク組織代表者会議にも議論された「屋久島宣言」、全国シンポジウムの期間中も、朝夕問わずご参加いただいたリーダーの皆さまが自主的に集まり、ムッレリーダーとしての志をどう表現すればよいか、検討が重ねられました。そして、その皆さまの思いを集約されたのが「**屋久島に集結したムッレリーダーが共有したこと**」です。また、参加者が1年間の個人目標も書き出し、次回シンポジウムで達成できたか確かめる事にしました。

屋久島に集結したムッレリーダーが共有したこと

わたしたちムッレリーダーは、
7000年後も、世界中の子どもたちが等しく自然の恵みとともに生きることにも貢献します

ムッレ教育を通して、子どもたちとともに育みたいこと

- ・自然感覚（自然循環への意識と自分もその一部であるという感覚）
- ・自分も含めたすべての命を大切にす気持ち
- ・お互いの違いを認め、尊重する

そのために、わたしたちは

- ・自らの自然感覚を育み、自分のライフスタイルに生かす
- ・人生に野外生活の時間をもち、楽しむ
- ・自らの人生を主体的に生きる
- ・子どもたちを自然に誘い、一緒に発見し、共感し、疑問を持ち、考える
- ・子どもたちの主体的な活動になるようにサポートし、子どもたちの思いに寄り添う
- ・ムッレ教室の良さを、より多くの人に知ってもらうために、積極的に情報発信する

これは終わりではなく、わたしたちは考え続け、行動し続けます



今回まとめられた「屋久島に集結したムッレリーダーが共有したこと」は、リーダー皆さまの行動指針として、今後の森のムッレ全国シンポジウムに引き継がれます。また、ムッレリーダーの皆さまが情報共有できるプラットフォームや情報発信の新たな展開につつまして、2020年4月からの新年度運用に向け準備中です。皆さまのサポートができるよう進めておりますので、ご期待ください。

御 礼

ネットワーク組織代表者会議及び森のムッレ全国シンポジウムにつつまして、実行委員をお引き受けくださいました認定こども園あゆみの森こども園さまにおかれましては、長期間にわたり企画準備から当日の運営、参加者のサポートなど、大変お世話になりました。

今回無事に終えることができたのも、永留嵯良子副理事長、熱田博之園長、森田一朗先生はじめ、職員の皆さまのご尽力の賜物と感謝いたします。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

＊ ＊ 特集 2 海外から注目される日本の森のムッレ教室 ＊ ＊

2019年は、例年になく、海外から日本の森のムッレ教室の取材、視察、そして体験学習の依頼が多い年でした。スウェーデンの自治体労働者組合機関紙の取材とストックホルムの「雨の日も晴れの日も」就学前学校の先生の視察は、森のムッレ協会新潟の加盟団体であるパイオニア・キッズさん（東京都）が受け入れてくださいました。また、ベルギー在住フィンランド人の森林研究者グループの視察は、NPO 法人響育の山里くじら雲さん（長野県安曇野市）が受け入れてくださいました。

そして、ツリーハウス株式会社との協働で、長野県北佐久郡軽井沢町において、中国・上海から来日した親子10組を対象に、当協会代表理事の高見豊がリーダーとなり、5日間の森のムッレ教室を体験していただきました。このように、日本の森のムッレ教室が海外から注目されるようになったことを誇りに思います。ご協力いただいたネットワーク団体の皆さんに、深く感謝いたします。（文責 高見幸子）



パイオニアキッズでの
視察記事

<https://ka.se/2019/11/08/skogsmulle-i-varldens-storsta-stad/?fbclid=SOmwowA>



NPO 法人響育の山里くじら雲
での視察記事

<https://natureminded.be/2019/12/26/japan-beyond-forest-bathing/?fbclid=IwAR2LpWbd6elbgSBammCV4KF1MXH3EnUt3ukbHu1kwoG9WGYUcnDNckYgoRg>



軽井沢で森のムッレ教室を体験する中国の子どもたち



＊ □ ＊ 投稿文募集のお知らせ ＊ □ ＊

ご自身のムッレ活動や野外活動に関する情報ご意見・ご感想などを募集しています！

①コラム名、②著者名、③所属先名、④電話番号、⑤E-mail をご記入の上、投稿文と活動写真(1～2枚)を添えて、E-mail にてお送り下さい。ご投稿お待ちしております。 担当：松枝 E-mail: mulle2639@gmail.com